

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 いるか教室つした		
○保護者評価実施期間	令和7年11月4日		令和7年11月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	令和7年11月15日		令和7年11月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月6日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	年齢または発達年齢に応じて小集団活動と個別活動を組み合わせた療育を行っている。(基本的には、年少以下の児は小集団活動中心の療育、年中以上の児は小集団活動と個別活動を組み合わせた療育。)	小集団活動では、年間を通して様々な活動(運動遊び、感覚触遊び、制作など)を設定し、遊びの中で経験を上げるとともに人との関わり方を支援している。 個別活動では、「大人に注目してもらいながらやりとりする」、「できたことで達成感を味わう」、「褒められる実感をする」、「ちょっと苦手なことも頑張ってみる」などをねらいとして、個々の状況に合わせて楽しく取り組めるよう内容を工夫している。	
2	保護者が子どもと一緒に活動したり、見守ることで、保護者が子どもの現状や成長を直接確認できる。	保護者が一緒に行う活動、見守る活動を子どもの状況に応じて設定するようにしている。	
3	保護者の日々の困り事や育児に関する相談がすぐにできる。	保護者との面談は、毎回設定している。併せて連絡帳での相談にも対応している。保護者の要望があれば、通所日以外の面談の機会を設けている。	保護者にわかりやすく説明できるよう、職員の専門性を高めしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ホームページなどの情報発信が十分にできていない。	法人事務局に任せきりになっていたのが、要因と思われる。	事業所内でも内容等を検討し、発信、更新ができるようにしていく。
2			
3			